

第五十一回卒業証書授与式及び第二十三回専攻科修了証書授与式告辞

本日、ここに、鈴鹿工業高等専門学校第五十一回卒業証書授与式及び第二十三回修了証書授与式を執り行うにあたり、ご来賓並びに保護者の皆様をはじめ、多数の方々のご臨席を賜り、喜びを分かち合えますことを、心から感謝しお礼申し上げます。

本日、晴れて鈴鹿工業高等専門学校を卒業する二〇七名、専攻科を修了する二十九名の皆様、そして、温かく見守り、強く支え続けられてこられました保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。入学されてからの年月を振り返り、卒業生・修了生のみならず保護者の皆様にも万感の思いが込み上げていることと思います。

私にとっても、格別の思いです。といたしますのは、私が校長として赴任した、その年に、本日、学科を卒業される多くの皆さんを新入生として、この会場で迎えることができたのです。そのときの、皆さんの希望に満ち溢れ、しかしちよっぴりと不安そうな、初々しい姿が昨日のように目に浮かんできます。こんな立派になって巣立って行く姿を見てとてもうれしく思っています。

さて、本校は、知・徳・体、三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、課外活動などに積極的に取り組むとともに、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた、学科と専攻科を縦断する複合型生産システム工学プログラムにより、大学レベルの高度な工学教育も実施してきました。その中で、楽しかったこと、つらかったこと、うれしかったこと、悔しかったことなど、色々な思いが心をよぎっていることでしょう。もっと頑張ればよかったと反省することもあるでしょう。しかし、皆さんは、無事、この卒業、修了の日を迎えられました。誇りにし、自信にしてください。ただ、ご家族の方、先生方など、周りの人々の支えにより、このよき日を迎えることができたということを決して忘れないようにしていただきたいと思います。

さて、鈴鹿高専には養成すべき人材像が四つあります。一つ目は、生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材を養成することです。二つ目は、高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材、三つ目は、課題探究能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材、そして最後は、コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材です。あなた方は、実践力を伴った創造力を有する、国際的にも活躍できる、人間性豊かな人物に育ってほしいと願って教育を受けてきました。この人材像は、一生を通じ当てはまるものですので、人生の節々で折に触れて思い出していただきたいと思います。

そして、皆さんの高専生活では、学業に加え、全力で取り組んだ課外活動や様々なイベント、そして海外研修も、キャンパスライフを豊かにしてくれたことと思います。夏の体育大会や文化行事、エコカーレース、秋のロボットコンテストやプログラミングコンテストなどの各種コンテスト、高専祭や各種学会発表などを通じ、皆さんの素晴らしい成長する力を確認することができました。また、鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますように、皆さんが受賞した数多くの表彰の喜びを分かち合うこともできました。理科系、文科系、体育系などの様々な分野からの表彰でしたが、鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを実感できた次第です。

皆さんは、これから就職、進学など多様な道を進まれます。皆さんがこれから大人とし

て生きる時代は、今まで以上に社会がスピーディに変化し、大量の情報が飛び交い、先が見通せない社会になるかもしれません。そんな社会において求められるものについて、多摩大学学長、報道番組でもおなじみの寺島実郎氏は、「結局、自身の価値基軸を見つめ、自前の羅針盤を磨くことしか、これからの時代を主体的に生き抜くことはできないであろう。」と述べ、自前の羅針盤づくりの必要性を説いています。

自前の羅針盤づくりには、自分を信じることです。Miwaさんの“結—ゆい—”の歌詞を思い出してください。「夢は描いた人しかかなえられないんだから。信じること。あなたの中に眠っている力に気づいて、あきらめないで。無駄なことなんて、なにひとつないって思い出して。僕たちはなりより強い絆で結ばれている。」と。あなたたちはなりより強い絆で結ばれています。夢を抱き、未来を見つめ、これからの長い人生航路に乗り出してください。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんとともに、幾人かの教職員も新しい職場に、人生へと踏み出されます。長きにわたり教育に尽力していただいた教養教育科の中井教授、電気電子工学科・花井教授、電子情報工学科・井瀬教授、そして事務サイドからサポートをいただいた深津事務部長、小西課長補佐、村田事務職員などの方々です。これらの方の思いもひとしおかと思えます。この場を借りまして深く感謝申し上げます。

結びにあたり、卒業、修了する皆様方が、充実した思い出深い高専生活での学びや経験を貴重な財産として、立派な人間に育ち、幸せな人生を送られることを祈念するとともに、本日の式典にご多用中にも関わりませず、ご参加いただきました、ご来賓、保護者の方々に厚くお礼を申し上げ、私の挨拶とします。

平成二十九年三月十七日

鈴鹿工業高等専門学校長
新 田 保 次